

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価（3月26日実施）		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題		
								改善方策等		
1	教育課程 学習指導	①主体的・対話的で深い学びを実現するとともに、ICTの活用を通して基礎学力を伸ばす。 ②「福祉の心」を育み、他者と協働して地域社会に貢献し、共生社会の実現に資する人材を育成する。	①ICTの活用を通して、生徒が学習に対して主体的に取り組み表現するなどの、深い学びの方策を検討し、構築する。 ②福祉に関する教育活動をさらに充実させ、「他者を思いやる力」「他者から学ぶ力」「他社と協働して地域社会に貢献する力」を身に付けさせる。	①ICT環境を整備し、校内外の教育資源やクロームブックを積極的に活用し、基礎学力を伸長させ、表現力を育成する教育方法を検討し構築する。 ②専門福祉、総合的な探究の時間、選択科目、課外のボランティア活動など、福祉に関する教育活動の機会を多く設定する。	①クロームブックを有効に活用する環境整備を進めることができたか。クロームブックを活用することにより、表現力を育成することができたか。 ②生徒が福祉に触れる機会を多く設定することができたか。ティーサービスセンターとの交流機会を増やすことができたか。	①一時貸し出し用、長期貸し出し用、職員用と校内のクロームブックの整備を行った。総合的な探究の時間を中心に調べ学習、スライド作成、発表の流れを実践した。 ②ティーサービスセンターのランチ交流等、コロナ下で制限されていた交流が復活し、16名の生徒が参加した。1年時の総合的な探究の時間では、引き続き全生徒が福祉体験を実践した。	①校内のプロジェクトやスクリーン等の劣化が各教室で見られるようになつたため、修理費の確保が課題である。来年度以降に各教室に電子黒板が配置されることもあり、その活用方法について検討する必要がある。 ②様々な課題があると考えられるが、決められた時間内での交流によらず、校舎内をティーサービスセンターの利用者さんが活用するなど、自然な形での交流ができるようになるといい。	①ICT利活用が進んでおり、調べ学習やグループ学習のプレゼンテーションを行わせるなど表現力を育成している。また、クロームブックの活用により、クラスルームでの課題の配信、提出が行われ、スマートな学習活動が行われている。 ②ティーサービスセンターとの交流では、文化祭、ランチ交流、七夕飾りつけなどが行われ、生徒にとってお年寄りとの触れ合いがあり、コミュニケーション力を高めることができている。	①ICT利活用に関しては、クロームブック、プロジェクトの活用により、生徒の深い学びにつながる授業ができる。また、導入予定の電子黒板について、即時に効果的な活用ができるように準備を始める。 ②綾瀬西ティーサービスセンターの利用の方の授業見学を2月に試行し、好評であった。4月から計画通り実施していく。	
2	生徒指導・支援	①生徒の自己指導能力と他者を尊重する姿勢を育成し、問題行動の未然防止を図る。 ②生徒の特性を多面的に理解し、生徒の特徴や教育的ニーズに即したより適切で必要な支援体制の充実を図る。	①生徒の自己指導能力と他者を尊重する姿勢を育成するため、日常生活・集会・学年での講演会等あらゆる場面で他者を意識した行動・言動の理解・浸透を図る。 ②SC、SSWや外部機関との円滑な連携を図るとともに、適切な連携先の周知、共有を行い、職員全体で活用できる教育相談体制の充実を図る。	①学校生活におけるルールを浸透させるとともに、交通安全教育については、日ごろのクラスでの呼びかけを含めた教育活動をより積極的に実施する。 ②SC、SSWとの情報共有、ケース会議、フードバンクを含めた外部機関との連携などを実践を行う。	①学校生活において、子どもたちに自らを律して行動させ、指導件数が減っているか。交通事故の件数が減っているか。 ②SC、SSWとの情報共有、ケース会議、フードバンクを含めた外部機関との連携などを実践できたか。	①令和6年度の10月15日時点での指導件数は44件であり、令和5年度の61件より若干改善している。ただし、令和5年度の件数は細かな指導を積み重ねた結果の可能性もあり、一概に件数が微減していることを好材料と取れ得ない側面もある。 ②SC、SSWと教育相談担当で木曜日1校時に情報共有の場を設定し連携を取っている。 ③ケース会議は3件実施し該当生徒への対応について協議している。 ④フードバンクは1学期に1回周知も兼ねて実施した。 ⑤支援学校のセンター的機能を活用し、えびの支援の巡回相談を依頼している。 ⑥児童相談所には、19件繋がり支援を行っている。	①遅刻件数、欠席数をはじめ授業へ向かう姿勢に未成熟なところもあるため、繰り返し粘り強い指導を行う。一方で、盗難被害も頻発しているため、授業時間の巡回指導の徹底をする。 ②SC、SSWの勤務日数に対し、対応するケースが多い。その上、対応に苦慮するケースが多いため、勤務時間の管理が難しい。 ③フードバンクの実施については、今後も効果の検証等が必要である。	①様々な課題を抱える生徒が多く在籍する本校では、職員によるチーム指導を続けており、課題の解決につなげることができている。また、SC、SSWや外部機関との連携も有効であり、今後も続けていく必要がある。 ②教育相談において重要な生徒個々の特性の理解をチームで行うことにより、個に応じた支援を行うことができた。SC、SSW、外部機関との連携を強化し教育相談体制を充実させていく。 ③フードバンクを継続して実施するとよい。	①特別指導の事前防止、交通安全、ネット犯罪等の防止に重点を置いた生徒指導体制を充実させていく必要がある。職員への負担を軽減させることも重要な課題であり、指導に係る業務をスリム化させる方策を検討する。 ②支援教育グループを中心に、教育相談体制の整備を進める。特に、今年度に実施したSCによる人権研修の成果が高かったため、次年度も続けて実施していく。	

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価（3月26日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①基本的生活習慣を確立するとともに基礎学力を伸長し、個性を伸ばすキャリア教育を推進する。 ②通級による指導を実践し、特性による学習上及び生活上の困難の改善、克服をめざす。	①生徒一人ひとりの個性を尊重しながら、社会的・職業的な自立に向けて、主体的に取り組めるキャリア教育を推進する。 ②通級による指導や教育相談をはじめとした支援体制を利用し、生徒一人ひとりに応じた支援の定着を図る。	①-1 学年進行に適した進路支援ワーク・ツール等を活用し、生徒の主体的な学びを推進することができる。 ①-2 外部連携を強化しながら進路支援プログラムの充実を図り、すべての生徒がより良い進路選択ができるよう支援する。 ②職員全体の情報共有をはかるとともに、SC、SSWと連携した支援を行なう。また、「NISE 学びラボ」を活用する。	①-1 進路支援ワーク・ツール等を活用し、主体的な学びを推進することができる。 ①-2 外部連携を積極的に推進し、生徒の進路選択につなげる活動ができる。 ②職員、SC、SSWの情報が共有されているか。「NISE 学びラボ」が活用されているか。	①-1 1学年は段階的に進路意識を高める活動、2学年は進路比較ワーク等、3学年は進路活動の振り返りと発表を実施した。 ①-2 2学年で校外キャリア教育を実施し、社会性を養い早い段階から就職意識を高めることに繋げた。高大連携や企業連携を拡大し生徒の進路選択の幅を広げることができた。 ②生徒の面談終了後に情報共有を行い、円滑に実施している。必要に応じて管理職への報告も実施している。 「NISE 学びラボ」については、職員への周知が改めて必要である。	①-1 生徒がいつまでに、どのような進路意識を獲得しておく必要があるのか整理し、効果を検証しながら進める。 ①-2 各連携機関から得た進路情報や各種プログラム等について、より生徒の参加意欲を引き出す広報活動を行う。 ②課題が表面化していく生徒のクラスが偏っているため、副担任や学年主任等も交えた情報共有を実施する。 「NISE 学びラボ」については、職員への周知が改めて必要である。	①-1 ゴールから逆算して、先を見た進路指導が有効である。 ソーシャルスキルトレーニング、スタディサプリ for SCHOOL、進路発表会など様々な取り組みが成果を上げている。 ①-2 校外キャリア教育では、2年生の段階で就職に対する意識を高めることができている。また、高大連携、企業連携により、生徒に有益な情報提供ができている。 ②通級による指導や教育相談をはじめとした支援体制が整っている。生徒一人ひとりに応じた支援により、生徒の力を育てることができた。	①-1 様々なキャリア教育の取組により、生徒の個性を尊重し、社会的・職業的な自立に向けた指導、支援を行うことができた。一部の生徒に自身の進路希望を決める時期が遅くなることがあり、すべての生徒に対し、キャリア教育に関する力を適切な時期に育てる必要がある。 ①-2 高大連携、企業連携がうまく機能しており、今後も継続していく。 ②通級による指導や教育相談をはじめとした支援体制が整っている。生徒一人ひとりに応じた支援により、生徒の力を育てることができた。	①-1 すべての生徒が自身の進路選択ができるように、年間のキャリア教育計画をブラッシュアップさせる必要がある。 ①-2 高大連携、企業連携等の外部機関とのつながりの幅を広げる必要がある。 ②通級による指導、支援の体制が整っており、少しずつブラッシュアップさせていく。
4	地域等との協働	①地域等との持続可能な協働活動を推進し、未来社会で生きる必要な力の育成と生徒活動の質の向上を図る。 ②PTAや地域等と連携して活動の場を充実し、地域社会と協働する意識を高める。	①生徒会活動・部活動・委員会活動を通じて地域社会の一員としての意識を醸成する活動を行い、地域と共に歩む学校としての活動を行う。 ②PTAや綾瀬市など地域との連携を図り、生徒が参加、協働できる場の実現を図る。	①文化祭などの学校行事において地域と協働し、奉仕活動を行うなど、生徒が主体的に地域と共に歩んでいく自覚を持たせるようにする。 ②PTAや綾瀬市自治体など地域と連携・協働が可能な行事の見直しを行なう。	①文化祭などの学校行事において、生徒の主体性を活かし、地域に対して働きかけを行うことができたか。地域と共に歩行うことができたか。地域と共に歩行う活動を実現できたか。 ②PTAや地域と協働する活動を校内で整理し、実現を図ることができたか。	①文化祭において地域企業や綾瀬市役所などの団体との連携を図り、ともに行事を行うことができた。生徒の意欲を引き出す支援を行なった。 ②自治体などと協働した行事について整理・検討し、学校行事ではPTAとの連携、防災訓練では綾瀬市との連携を図った。2月にはデサービスセンターへの施設開放を行なった。	①生徒が主体性をもって行事に取組むよう、参加方法など関わり方の検討が必要である。また、一年限りではなく継続的に地域との関りを育む活動の検討も必要である。 ②PTA活動により、生徒の学校生活が充実している。今後は、PTAだけでなくスクールボランティアの活動を活発化させることができればよい。	①文化祭での地域との交流は、生徒の自主性やコミュニケーション力を高めている。 ②PTA活動により、生徒の学校生活が充実している。今後は、PTAだけでなくスクールボランティアの活動を活発化させることができればよい。	①生徒会活動・部活動・委員会活動を通じて地域社会の一員としての意識を醸成することができた。また、文化祭などを通じて、地域と共に歩む学校としての活動を行うこともできた。 ②PTAや地域等と連携して、生徒の活動の場を充実させ、地域社会と協働する意識を高めることができた。	①様々な生徒会活動等により、地域との交流を深めることができているが、今後も少しずつ交流の機会を増やしていく必要がある。 ②PTAや地域の団体との交流が定着してきている。幅を少しずつ広げていく必要がある。
5	学校管理 学校運営	①学校運営協議会委員等、地域の多様な人材の意見を集め、社会に開かれた安全で安心な学校づくりをめざす。 ②組織的、計画的、継続的に校内研修を行い、教職員の資質と学校の教育力の向上をめざす。	①社会に開かれた安全で安心な学校づくりに向けて、学校運営協議会を活用し、教育活動の充実につとめる。 ②教職員の支援教育や人権教育に係る校内研修を計画的に実施する。	①学校運営協議会や学校設置部会において、意見聴取や情報収集の機会を設け、整理し、改善につなげる。 ②研修の成果から、重点的な課題を絞り込み、共有することにより、教職員のスキルを向上させる。	①学校運営協議会や学校設置部会からの提案を整理、共有、実現することができたか。 ②支援教育や人権教育に係る重点課題を共有し、生徒への支援教育を充実させることができたか。	①学校運営協議会でのご意見をまとめ、記録し校内で共有することができた。 ②夏季休業中に職員対象の福祉研修を実施した。研修をもとに、1学年の総合的な探究の時間で福祉教育を実施し、探究活動を行なった。AED講習も夏季休業中に2回に分けて実施した。人権研修は、11月にLGBTQをテーマに実施した。	①いただいたご意見を実現していくよう、各グループや地域との連携を図っていき。 ②福祉研修、AED講習などさまざまな研修が同時期に予定されてしまうため、人権研修の時期設定が難しい。 人権研修や支援教育に関する研修の題材について、教職員からのニーズを集約する。	①地域とのつながりをコーディネーターの協力を得て活性化させることができる。地域には、学校との交流を望んでいる方がいる。 ②SCによるLGBTQに関する職員研修は、有効な研修であり、今後も続けてほしい。	①社会に開かれた安全で安心な学校づくりに向けて、学校運営協議会を活用し、教育活動の充実させることができた。 ②教職員の支援教育や人権教育に係る校内研修を計画的に実施することができた。	①今年度の学校運営協議会委員からの意見を今後の学校経営に生かしていく。 ②支援教育や人権教育の職員研修が充実している。今後、さらにブラッシュアップしていく。